



青森県基本計画

「選ばれる青森」への挑戦

支え合い、共に生きる

上北地域の若い世代の地域に対する 意識調査結果(概要)について

令和4年1月

上北地域県民局地域連携部

<調査の概要について>

○実施主体 上北地域県民局地域連携部（運営受託者：株式会社エンジョブ）

○背景と目的 人口減少や少子高齢化が進む中、地域づくり（地域住民による課題解決に向けた活動）は様々な分野で重要なテーマとなっており、全国の多くの自治体では、住民参画や協働の力で、暮らしやすい地域の維持や活性化をしていきたいと考えています。そのため、アンケートにより上北地域に暮らす20代～50代の働く世代や子育て世代の地域に対する意識や地域活動への参画の実態、参画の障害となっている要因等を調査し、市町村等と共有し、今後の取組の課題整理等、行政機関における施策整理の参考資料として役立てていきます。

○実施時期 令和3年6月8日～7月14日

○結果の公表 県HPに掲載（https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenmin/ka-renkei/R3_kamikita_wakaisedai_community.html）

○調査票配布数と回答状況 1,623名／4,051名（回収率：40.1%）

市町村名 項目	十和田市	三沢市	野辺地町	七戸町	六戸町	横浜町	東北町	六ヶ所村	おいらせ町	合計
回答数	222	237	162	155	210	103	202	153	179	1,623
構成比	13.7%	14.6%	10.0%	9.6%	13.0%	6.3%	12.4%	9.4%	11.0%	100%

○問い合わせ先 上北地域県民局地域連携部 地域支援チーム（0176-22-8194）

<調査結果の概要>

1. 回答者

▶ 1,623人からの回答のうち、「子育てをしている女性」からの回答が約8割(1,252人)です。

2. 現在暮らしている「地域」に対する認識

住民同士のつながり等への認識

- ▶ 約6割が、「つながり」や「まとまり」が薄くなっていると感じています。
- ▶ 約8割が、地域の安全安心な生活環境の維持や活性化のために、地域に暮らしている住民同士のまとまりや協力が必要と考えています。

住民が協力して取り組む必要があると思う活動

- ▶ 「地域の子ども達のための活動(通学時の安全確保、育成活動等)」、「防犯対策活動」、「地域の環境美化活動」の順に回答が多くありました。

3. 「地域活動」への関心や参画の状況等

関心の有無や参画の状況

- ▶ 「関心はあるが、参加していない(できていない)」、「関心はないが、付き合いで参加している」、「関心はないし、関わりたいとも思わない」、「関心があり、参加している」の順に回答が多くあり、約7割が、地域活動に「関心がある」ものの、「関心がある」人達の中でも、約8割は参加していない(できていない)状況にあります。
- ▶ また、子供が「いる世帯」、「いない世帯」別や世代別(20代、30代、40代、50代)の結果を見ても、「関心はあるが、参加していない(できていない)」人達の割合が最も多くなっています。
- ▶ このほか、世代が低くなる程、「関心があり、参加している」人達の割合が減少し、「関心はないし、関わりたいとも思わない」人達の割合が増加しています。

「関心はあるが参加していない」人達の理由

- ▶ 「時間的な余裕」、「情報がない」、「地域の人との付き合い」の順に回答が多くありました。
- ▶ また、参加していない(できない)理由が、複数(2つ以上)ある人は、約5割となっています。

<調査結果の概要>

4. 参加してみたい活動や行事

▶「地域の子ども達のための活動」、「若い世代が交流できる活動」、「地域の環境美化活動」の順に回答が多くありました。

<参考>参加してみたい活動や行事で、「その他」を選択した人の自由記述内容の一部

十和田市	▶「私達が子供の頃、夏休みにやっていたラジオ体操を夏休み中に1回でも地域の集まれる人で集まってやれたらいいと思います」
三沢市	▶「夏祭り等、子どもが楽しめる活動」、「移住者や転勤族が交流できる活動、地域活性化の活動」
野辺地町	—
七戸町	▶「夏祭り」、「子どもたちと一緒に参加できるイベント」、
六戸町	▶「他から移住してるのに周りの付き合いがない」、「マルシェやフリーマーケット、お下がりお譲り会など」、「盆踊り、夜店」
横浜町	—
東北町	—
六ヶ所村	▶「子供会や町内でのイベント」 ▶「始めから住んでいたわけじゃないので、前からいる人たちの中に参加しづらいのが1番ネックなところ。子どもと一緒に何かできれば自分の寂しい気持ちとか不安な気持ちも気が紛れて参加しやすくなるので子連れて気軽に活動できるハイキングとかあれば参加してみたいです」
おいらせ町	▶「編み物教室、料理教室など」、「子供連れでもいける活動」、「日曜日で、小さな子ども連れが歓迎である活動」

<調査結果の概要>

5. 「町内会」との関係に関すること

加入状況	▶約7割が、町内会に加入しています。
未加入者の理由	▶「参加のきっかけがないから」、「町内会の運営に関われる時間的な余裕がないから」、「町内会に加入するメリットがわからないから」の順に回答が多くありました。
若い世代が関わりやすくなるために必要だと思うこと	▶「楽しみながら活動できること」、「活動と一緒にいる仲間や知り合いがいること」、「活動に関われる時間的な余裕ができること」、「組織の運営方法等の負担軽減」の順に回答が多くありました。
加入者が思う組織の将来のありたい姿	▶「子どもたちの安全・安心な暮らしを応援できる組織」、「会員が楽しいと思える活動ができる組織」、「様々な世代の関係が良好となる活動ができる組織」の順に回答が多くありました。
受け取りやすい情報発信の方法	▶「ポスティング」、「SNSによる情報発信（LINE、Facebook、Twitter、Instagramなど）」、「紙媒体の回覧版」の順に回答が多くありました。

6. NPO法人やボランティア等、町内会以外での活動

活動状況	▶約9割が、活動していない。 ▶活動している人達のうち、「組織に属さず個人や友人と活動している」人は、約3割。
活動の種類	▶「子どもや青少年を対象とした活動」、「地域づくりやまちづくりに関する活動」、「スポーツ社会教育活動」の順に回答が多くありました。
地域活動に参加してよかったこと	▶「地域に顔見知りが増えたり、新しい仲間ができること」、「地域への貢献を実感できたこと」、「自分の経験や技術を活かすことができたこと」の順に回答が多くありました。

<調査結果の概要>

<参考>若い世代が町内会に関わりやすくなるために必要だと思うこと【自由記述内容の一部】

十和田市	▶「十和田市が仲介役として、間を取り持ってくれる事」、「声がけ、チラシ」
三沢市	▶「入りたいと思うようなメリットをつくる」、「転入時や住所変更時に案内用紙が配布されるなど。回覧の一部電子化」、「地元民ではないからと、孤立に追い込まないこと」、「まずは回覧板、会費など電子化省力化」、「楽しいイベントと税負担など」、「世代間認識、PDCAサイクル」 ▶「町内会長を2年毎に子育て世代で交代しながら運営する。高齢の方は、あくまで相談役。」
野辺地町	▶「オープンな情報発信」、「世代間の壁を取り除くこと、若い人の声に耳を傾けること、若い人や女性が話し合いに参加できるようにすること」、「係などに強制でないこと」
七戸町	▶「気軽に参加できる組織であること。目上の方々が広い心で受け入れてくれること。」
六戸町	▶「活動内容の透明性、特に会費など、町内活動に関わる運転資金など金銭に関わる事」、「組織の若返り。若者の組織運営」、「町内会費などを、班長が集めることが一番の苦痛である。そこは、銀行引き落とし等を活用するべきではないか。」
横浜町	—
東北町	▶「ボランティア活動などが生活の負担にならないように押し付けは辞めてほしい。」、「情報の発信」、「世代交代で、若い人だけの集まりがあれば参加しやすい」
六ヶ所村	▶「地域活動に参加するために仕事の休暇が取りやすくなると良い。クリーンアップやお祭りなど」、「町内会の必要性を若い世代の人に伝えた方がいいと思う」
おいらせ町	▶「小さな子供がいると長時間の参加が苦痛に感じることもあるので短時間にするなどの工夫もあればありがたいです」 ▶「町内会等の徴収を振り込みや容易にできる方法を検討すること。どのような活動をしているのか、写真などを掲載し、わかりやすく情報発信すると、行きやすくなるのではと思います。(しかし、そのような情報発信も、手間暇がかかりますが。)また、気軽に参加できるようなものであると、参加しやすいです。」